

2017年度しあわせ研究

「子育て哲学カフェ」という場から
生まれるしあわせ

研究員 生井亮司

榎田二三子、義永睦子



本研究は、子育て中の保護者を対象に哲学対話（哲学カフェ）を行うことが子育てに対する意識や子育てに対する幸せ感に変化が生じるかということの研究するものである。

哲学対話は「子どものための哲学（philosophy for children）」を中心に1970年代に Matthew Lipman らによってはじめられたものです。日本では2000年ころから、主に小学生を対象にしながら広まってきました。そして、現在では、子どもに関わらず、大人によっても哲学対話（哲学カフェ）が広まりつつある。

哲学対話とは偉大な哲学者の文献を読むようなものではなく、だれもがもっている「素朴な問い」からはじめられます。例えば「大人とは何か？」や「普通とは何か？」あるいは「学校とは何か」などといったものです。このだれもがもっている「素朴な問い」を参加者の日常的な経験をもとに対話を重ねること（問いかけに問いかけで答えること）によって、根本的で哲学的な問いへと深まっていくこととなります。こうした哲学対話をかさねることによる「素朴な問い」の深まりは、それまで当たり前だ

と思っていたことをあらためて疑ってみることを可能にします。そしてこの当たり前だと思っていたことの中にある新たな意味に気づき、新たな価値を見出すことを可能にします。では、こうした哲学対話を子育て中の保護者たちと行うことには、どのような意味があるのでしょうか。

今日、日本の社会状況における育児環境はワンオペなどに代表されるように、母親（あるいは父親）と子どもという二人だけの関係性に閉ざされることが多くなりつつあります。そうした環境では、日常の現実の対応に追われ、その大変さばかりにふりまわされてしまい、子育ての本来の意味を見失いがちになります。しかし、そうした忙しい日常から離れて数時間（1時間半くらい）でも哲学対話を行うことは、私たちに育児の本来の意味を気づかせることとなります。また対話に参加した者同士の相互的な理解や承認も可能になります。

つまり、哲学的な対話は固定化してしまった価値や概念といった、いわば境界を一旦崩すことによって、あらたに「出会い直す」ことを可能にすることになるのです。こうした哲学対話を行うことで、わたしたちは当たり前なものに何度でも「初めてのように出会う」ことができるようになり、幸せ感や生活世界の感じ方にも変化があらわれてくるのです。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University Creating Happiness Incubation

武蔵野大学しあわせ研究所

電話：03-5530-7730

東京都江東区有明3-3-3

メール：mhi@musashino-u.ac.jp